

2021 年 4 月 17 日

発掘調査から見た平安京の路～富小路を中心に～

(公財) 京都市埋蔵文化財研究所 鈴木康高

はじめに

1. 「みち」とは

・道と路

道は、街の外を移動する際のルートという意味、路は街の中を移動する為の場所という意味。

・都城外の道

・軍事と道

・みちの機能とは？

人・モノ・情報を効率的に移動させる。そのため、効率的なルートの選択と最短距離になるような直線的な道が作られる。→中央政府が地域社会を管理するためには、効率的な人・モノの移動が重要。

・様々なみちの機能

辻・衢→「みち」と「みち」が交差するところ(十字路)→人が集まるところ(立札など)→市の発生と位置(軽の市、槻の市、平安京の東西市など)

祭礼空間・・・七条大路稻荷祭り、祇園祭など

その他の利用・・・排池・死体遺棄・ごみ捨て場など

2. 平安時代から室町時代にかけての富小路の変遷

・平安京の路とその構造

・富小路発掘調査成果

調査地：中京区麩屋町通四条上る

平安時代中期から室町時代にかけての 6 時期に渡る富小路の変遷が明らかになりました。4 段階に分けて路面の調査を行いました、これら以外にも部分的な修繕などが繰り返し行われていた様子が確認でき、実際はさらに多くの路面が存在します。

【各時期の富小路の規模】

1 期 (平安時代中期中葉) 路面 4 A 路面幅：4.2m 側溝：溝 337・388 路面標高：36.9 ～ 37.04m

2 期 (平安時代中期中葉) 路面 4 B 路面幅：4.5m 側溝：溝 337・338 路面標高：36.9 ～ 37.04m

3 期 (平安時代中期後葉) 路面 3 路面幅：4.2m 側溝：溝 223・224・236・334 路面標高：37.05 ～ 37.2m

4 期 (平安時代後期) 路面 2 路面幅：5.3m 側溝：溝 174・199 路面標高：37.2 ～ 37.3m

5 期 (鎌倉時代) 路面 2 路面幅：5.3m 側溝：溝 126・149 路面標高：37.2 ～ 37.3m

6 期 (室町時代) 路面 1 路面幅：4.5m 側溝：溝 112・121 路面標高：37.3 ～ 37.4m

3. 路と水と地形

・東京極大路の洪水痕跡

東京極大路の発掘調査では、平安時代前期から室町時代までの 5 時期の路面を確認しています。この中で 10 世紀後半には厚さ 0.4m 以上の盛土再造成が行われ、鴨川の洪水に対応するために堤状にする意図があったことが指摘されています。また、洪水によって運ばれてきた砂礫が厚く堆積するところも見られることから、東京極大路は鴨川の影響を強く受け、それに対応するための工夫がなされた路であるといえます。

・文献史料にある洪水

鴨川の洪水がおよんだ範囲については、「京中」、「東西京中」といった広域を抽象的に示すものや具体的な範囲を示しているものがあります。後者の中に、富小路関連の記事を 4 箇所確認することができ、洪水関連で記載される路としては最多です。「富小路以東が海」、「京極・富小路が海」、「富小路以東が海」、「富小路殿(二条北・富小路東)」とあり、小規模な洪水の影響の端が富小路であると捉えることもできます。

・地形からみる東京極大路と富小路の関係

富小路・・・北から南へ緩やかに張り出す舌状微高地の東端に位置する安定した環境。

東京極大路・・・鴨川によって開析されたと考えられる低地に位置。

富小路は東京極大路より好条件の環境に位置し、自然の「堤防上」にあると見ることもできます。

4. まとめ

今回の調査では、平安時代から室町時代までの富小路の 6 時期に渡る変遷が明らかになりました。平安京の路は現在の道路と重複していることが多く、その全体を確認することができた貴重な調査となりました。

平安京の土地利用の変遷や『池亭記』などの史料から平安京の右京が衰退し、左京の四条以北に居住者が集中するようになるなかで、富小路の整備が進められ、これ以後、連綿と路として利用されていくと考えられますが、江戸時代以降になると井戸や土坑などが見られるようになることから、路から宅地へと変化が確認でき、その契機としては豊臣秀吉による天正地割によるものと考えられます。この天正地割によって新たに開かれた路が現在の麩屋町通になります。結果として、富小路から麩屋町通への移り変わりがありますが、平安時代から現在に至る 1000 年以上の路の歴史がわかり、連綿と続く都市・京都ならではの調査になりました。

【参考文献】

石田志朗 1996「京都盆地北部の扇状地—平安京遷都時の京都の地勢—」『古代文化』34-12 古代学協会

近江俊秀 2014『日本の古代道路』角川選書 548

柏田有香・持田透 2015『平安京左京二条四坊十五町跡、東京極大路跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告

2015-5 (公財) 京都市埋蔵文化財研究所

片平博文 2013「平安京・京都の洪水と旱魃」『テキスト文化遺産防災学』立命館大学「テキスト文化遺産防災学」刊行委員会

白石太一郎 1996「古代の衢(ちまた)をめぐる」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 67 集 国立歴史民俗博物館

鈴木康高 2020『平安京左京四条四坊十二・十三町跡、富小路跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2020-3 (公財) 京都市埋蔵文化財研究所

高橋康夫 1983「序章 辻子 その発生と展開」『京都中世都市史研究』思文閣出版

辻純一 1994「条坊制とその復元」『平安京提要』角川書店

辻裕司 1993「平安京右京四条二坊」『昭和 63 年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財) 京都市埋蔵文化財研究所

山田邦和 1994「左京と右京 平安京の概要」『平安京提要』角川書店

山本雅和 1997「平安京の路について」『立命館大学考古学論集』I

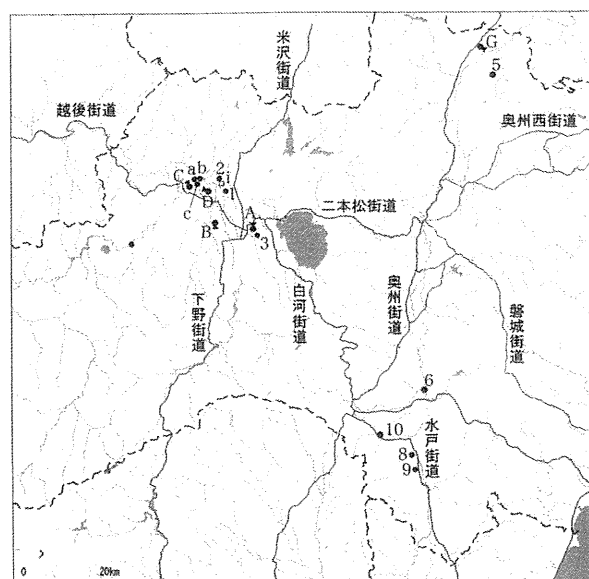
山本雅和 2007「平安京の街路と宅地」『平安京の住まい』京都大学学術出版会

山本雅和ほか 2020『平安京右京三条三坊五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2017-15 (公財) 京都市埋蔵文化財研究所

(中略)

禾斗^{コト}所^ニ建^ス之^ヲ國^ニ也^{ナリ}而^{シテ}覆^フ奏^ス外^ニ天^ノ下^ヲ太^ニ平^ニ人^ノ且^ニ履^ス祭^ス於^ニ是^ニ祿^ヲ今^ニ比^ス男^ノヲ^ノ商^ノ

力十二道而今禾平其屬者源流不
字以音。子三老道且源國



- 1 桜町遺跡
- 2 館ノ内遺跡
- 3 墓料遺跡
- 4 荒屋敷遺跡
- 5 根古屋遺跡
- 6 鳥内遺跡
- 7 砂畑遺跡
- 8 崖ノ上遺跡
- 9 中萩平遺跡
- 10 滝ノ森B遺跡

図2 福島駅の駅路と街道と関連遺跡（近江 2014 による）

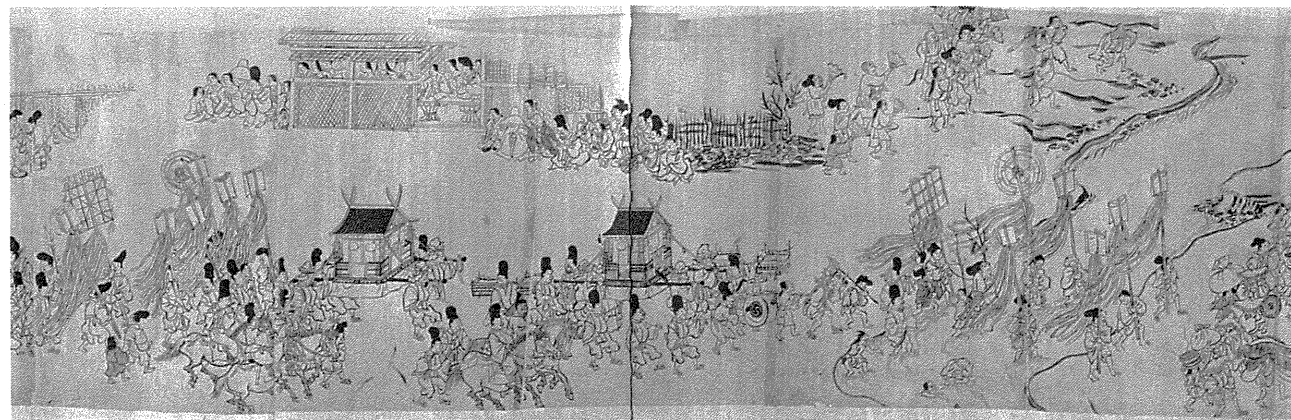


図5 年中行事絵巻



図6 餓鬼草子

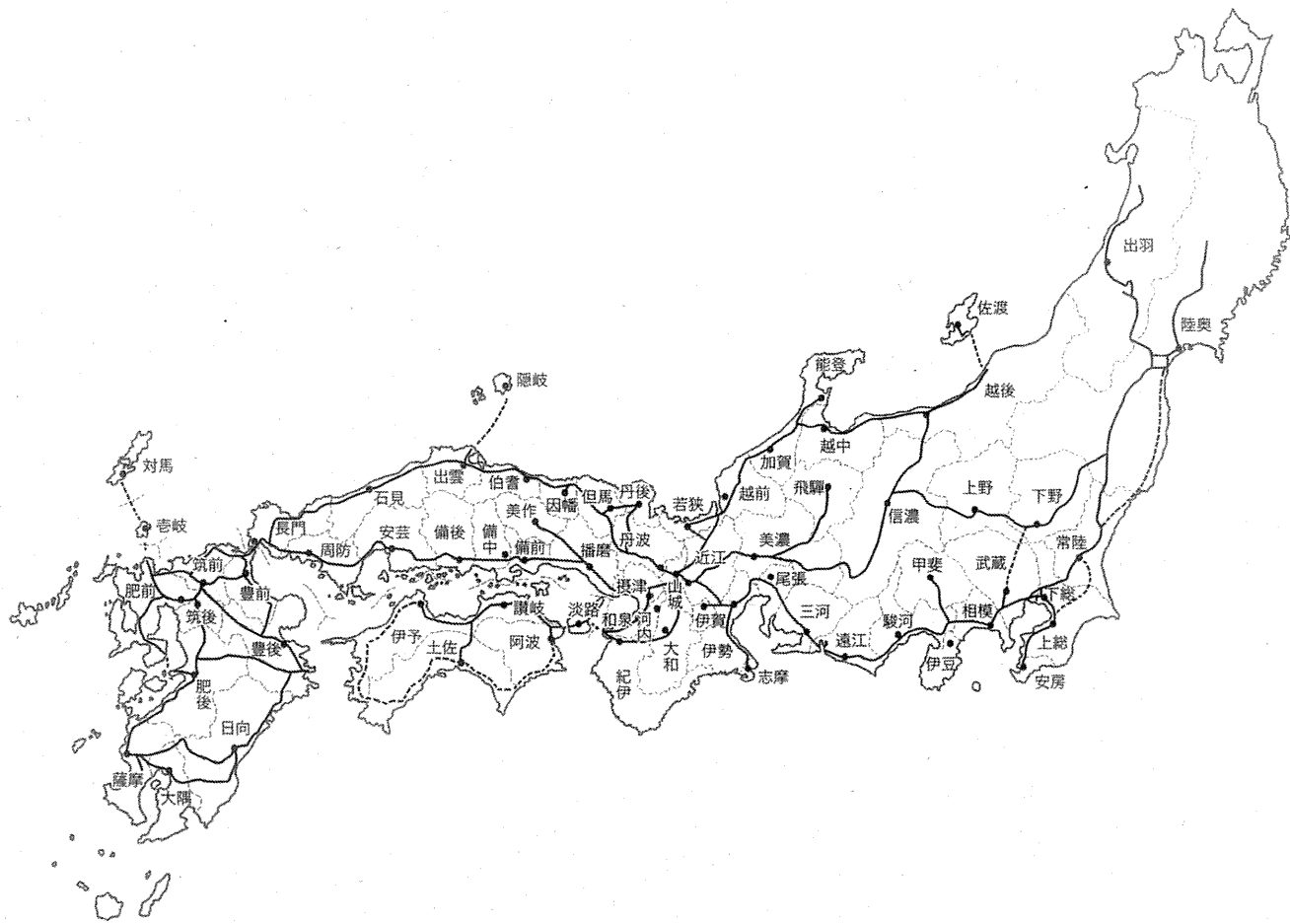


図1 奈良・平安時代の道路（近江 2014 より）

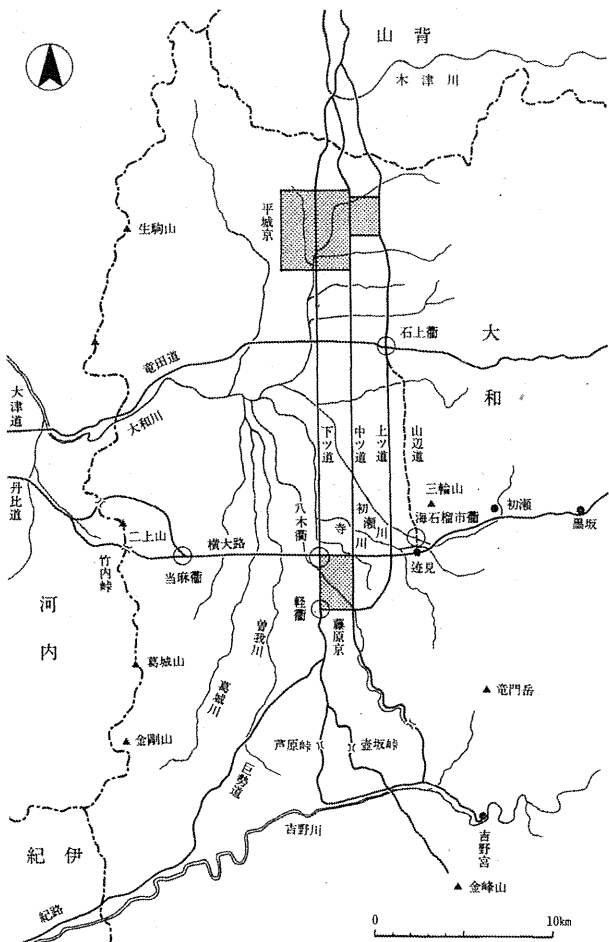


図3 大和の古道と衢（白石 1996 より）

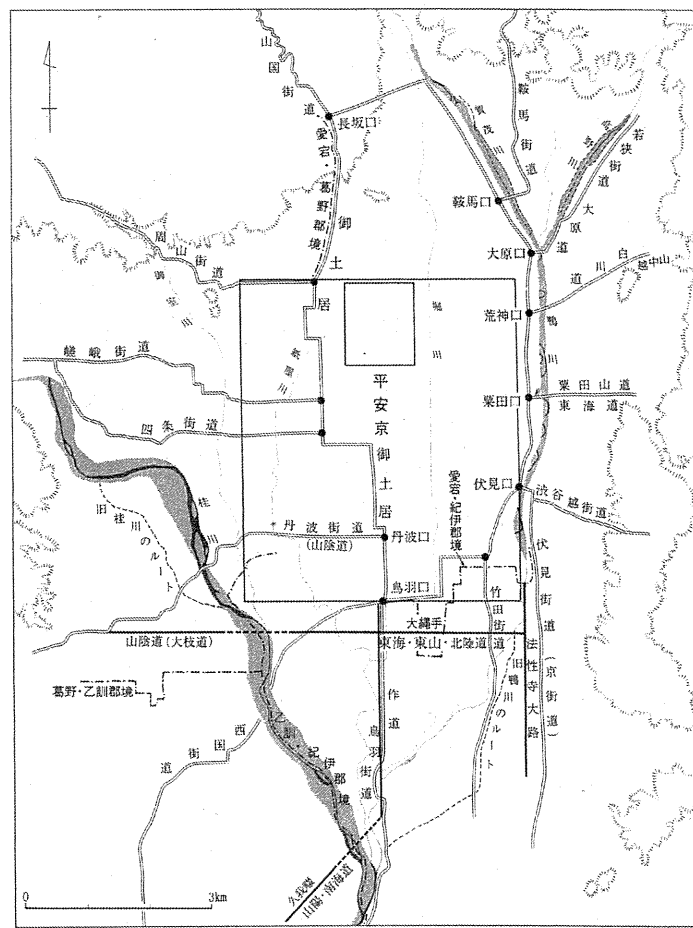


図4 平安京近郊の街道（平安京提要 1994 より）

京程
南北一千七百五十三丈
今勘手七百五十一丈
四位大外記中原師重之本云路小路
北極并次四丈大路廣各十丈
宮城南大路十七丈
次六丈大路各八丈
南極大路十二丈
羅城外二丈溝廣一丈
大路十丈
今案路北畔垣基三尺大行五尺溝廣四尺者兩溝間八丈八尺
小路廿六廣各四丈
町卅八各卅丈
自朱雀大路中央至東極外畔七百五十四丈
自朱雀大路中央至西極外畔七百五十四丈
朱雀大路半廣十四丈
次一大路十丈
次一大路十二丈
次一大路八丈
東極大路十丈
小路十二各四丈
西邊各二丈
町十六各卅丈
右京准此
朱雀路廣廿八丈
自垣半至溝邊各一丈八尺垣基三八丈
自垣半至溝邊各一丈八尺垣基三八丈

史料2 延喜式 京程条

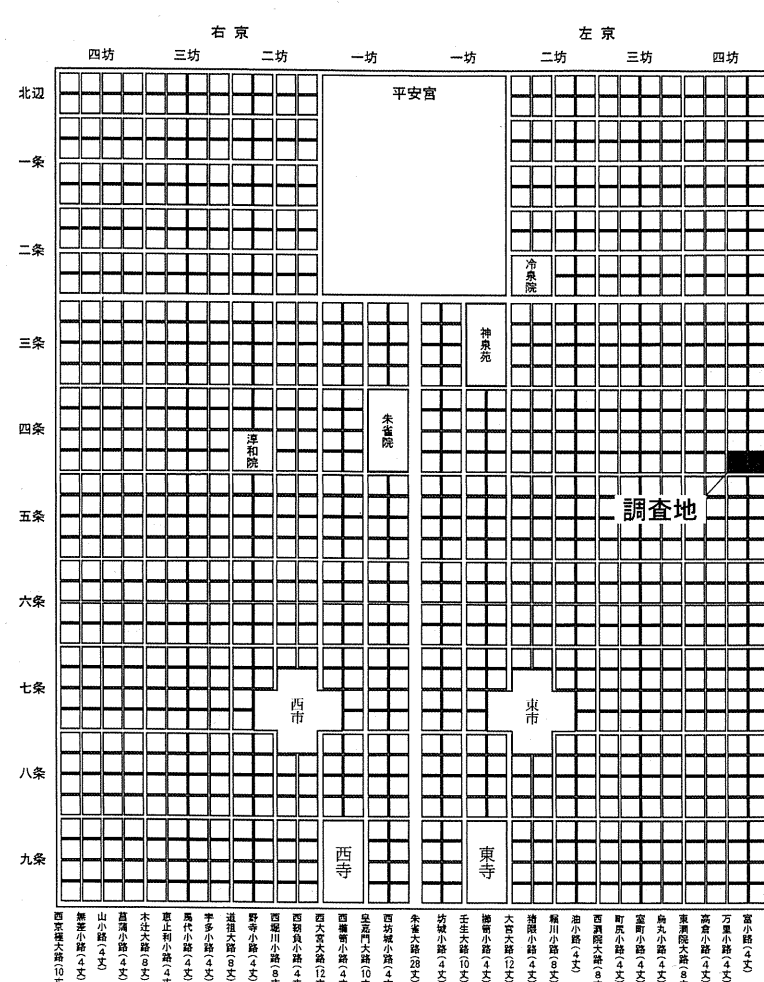


図7 平安京条坊図

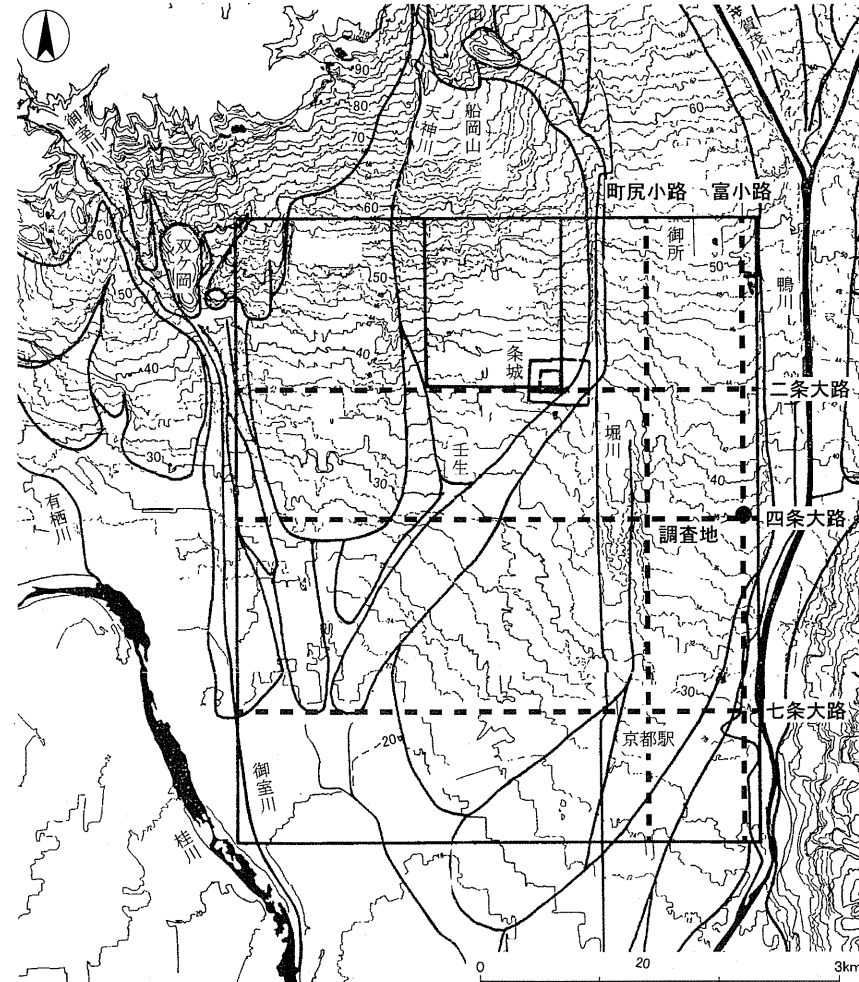


図10 京都盆地北部の扇状地と調査地（石田 1996 より一部改変）

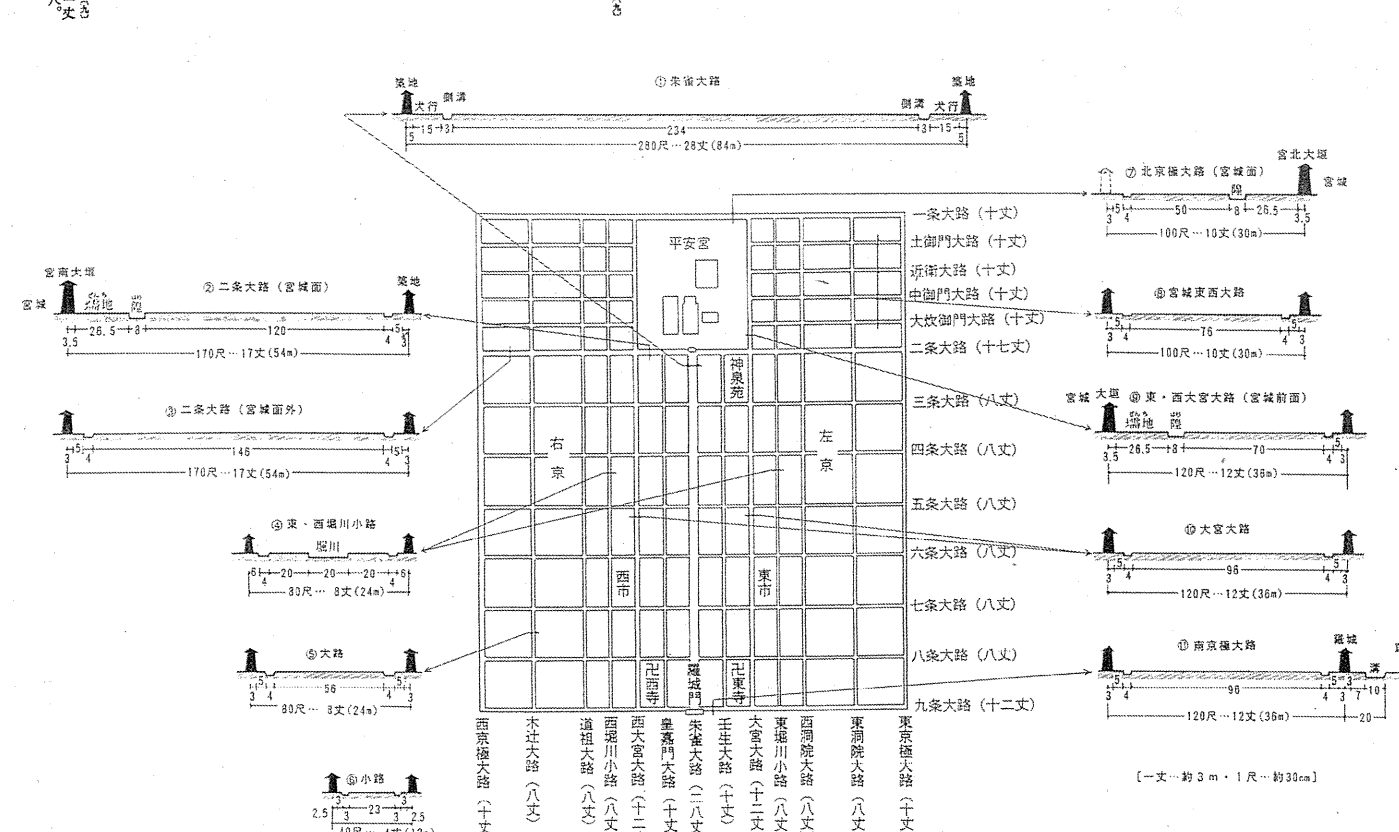


図8 平安京の大路・小路とその寸法

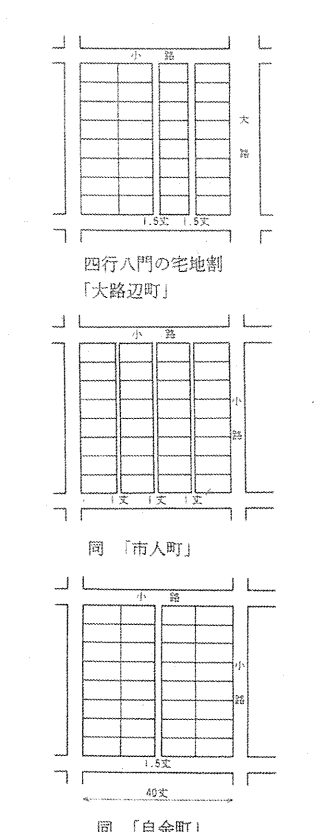


図9 宅地内の通路（小径）

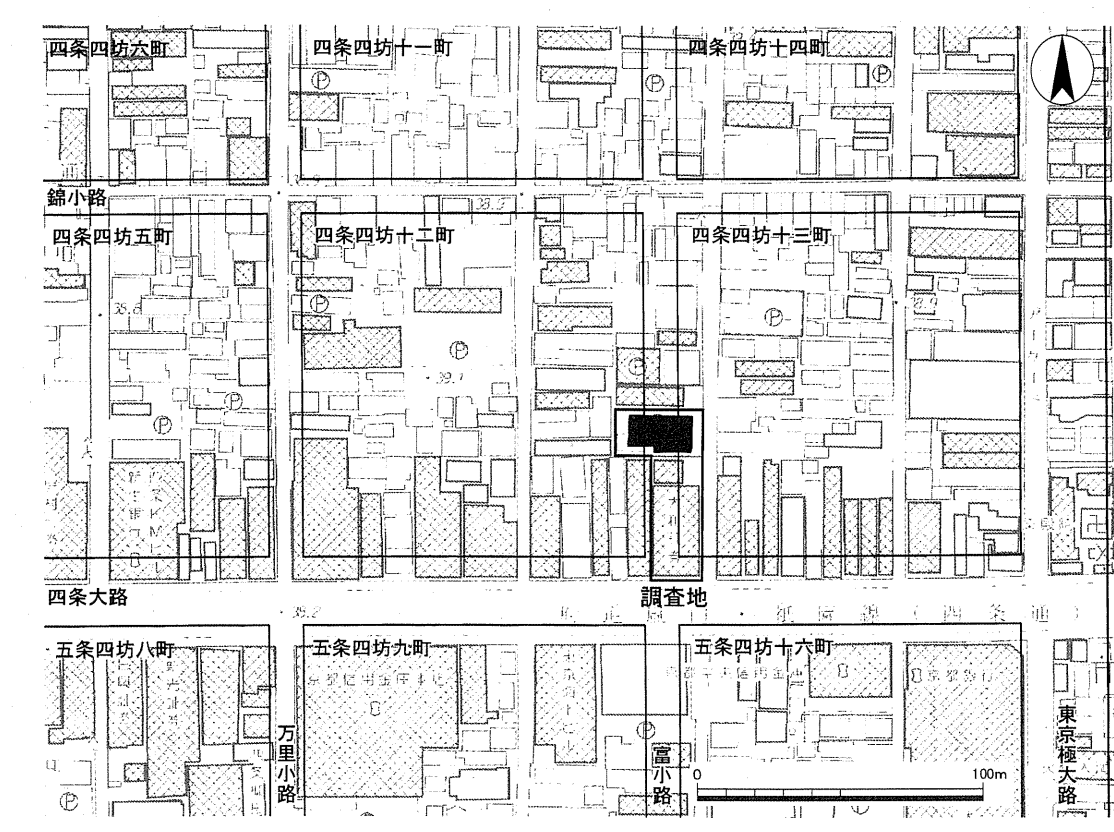
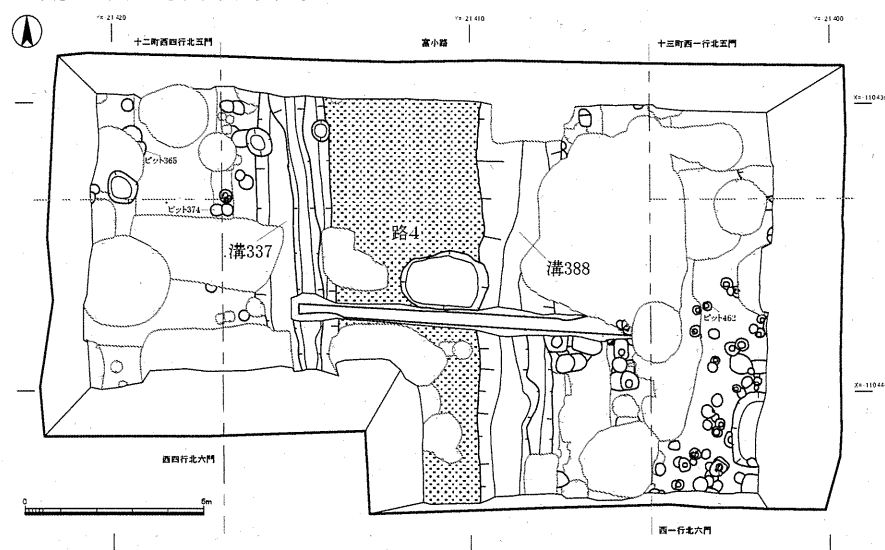
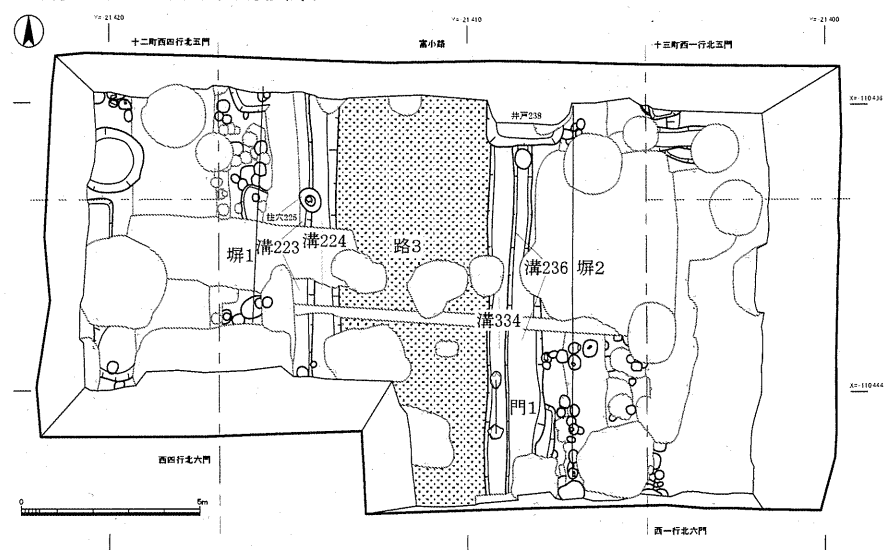


図11 調査地位置図(1:2,500)

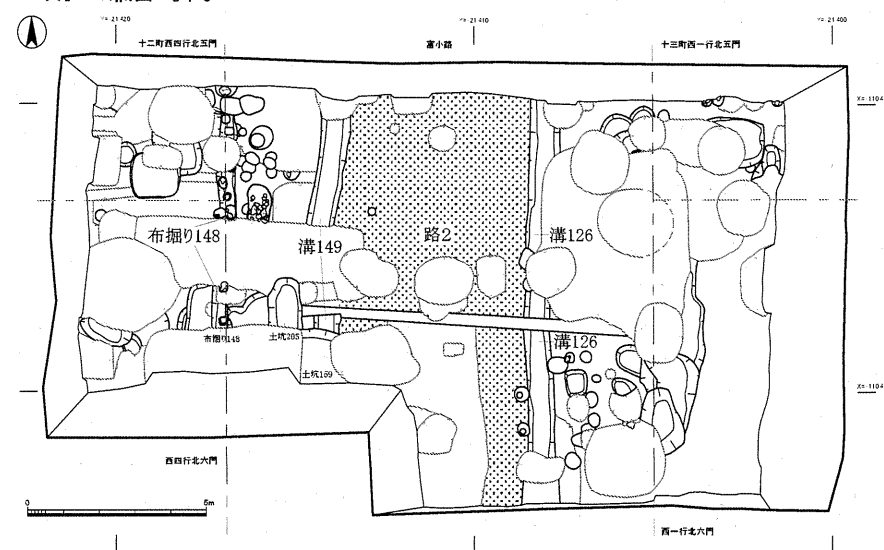
1期 平安時代中期中葉



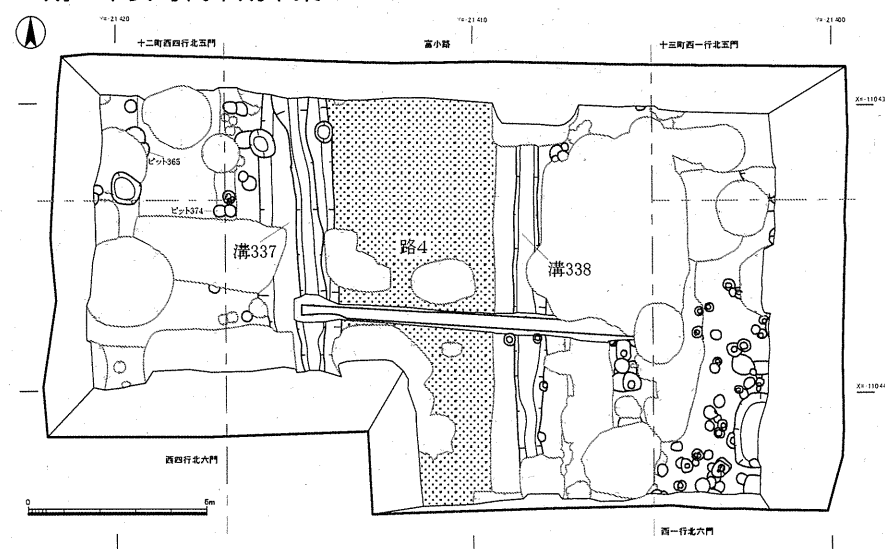
3期 平安時代中期後葉



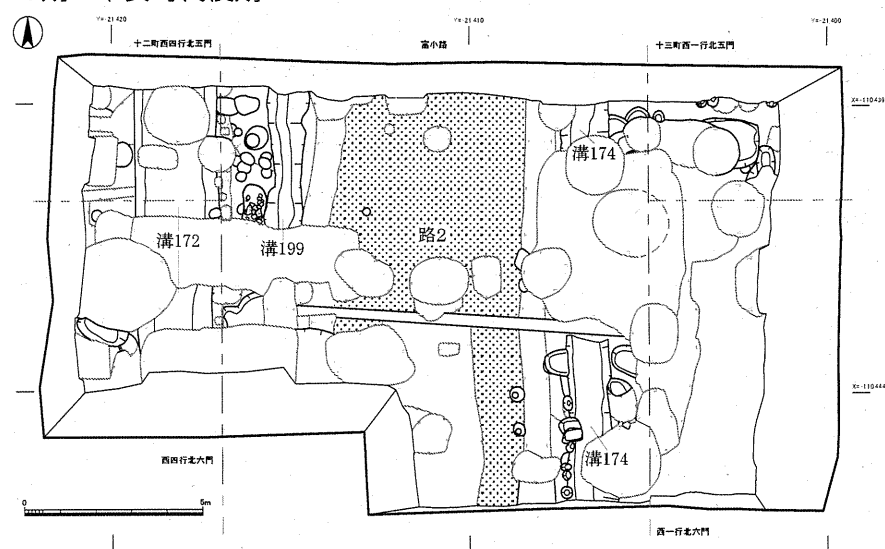
5期 鎌倉時代



2期 平安時代中期中葉



4期 平安時代後期



6期 室町時代

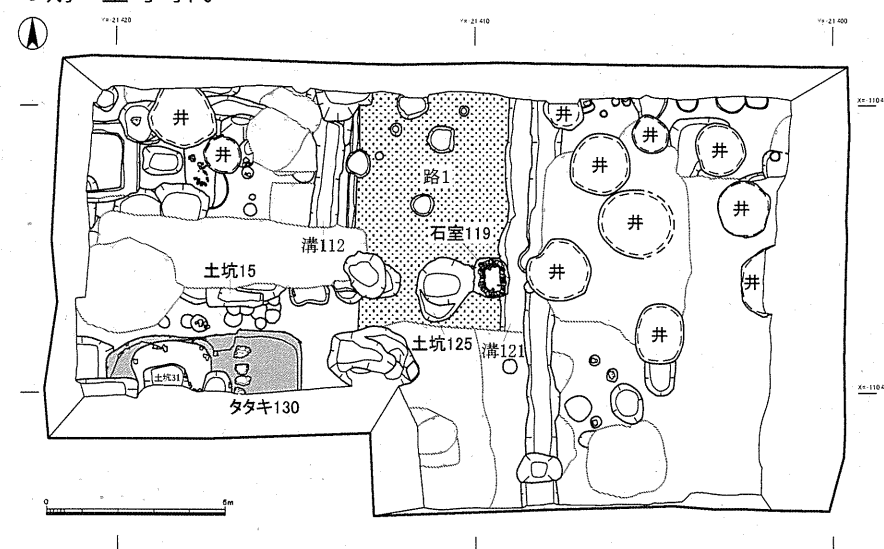


図12 富小路変遷図 (1:200)

6期のゴチックは江戸時代以降の遺構を示す

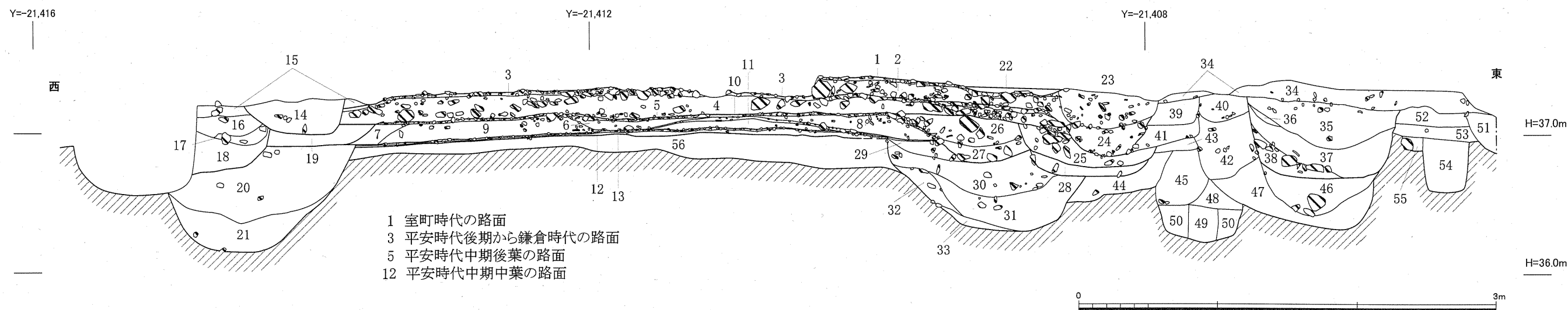


図13 富小路断面図 (1:30)

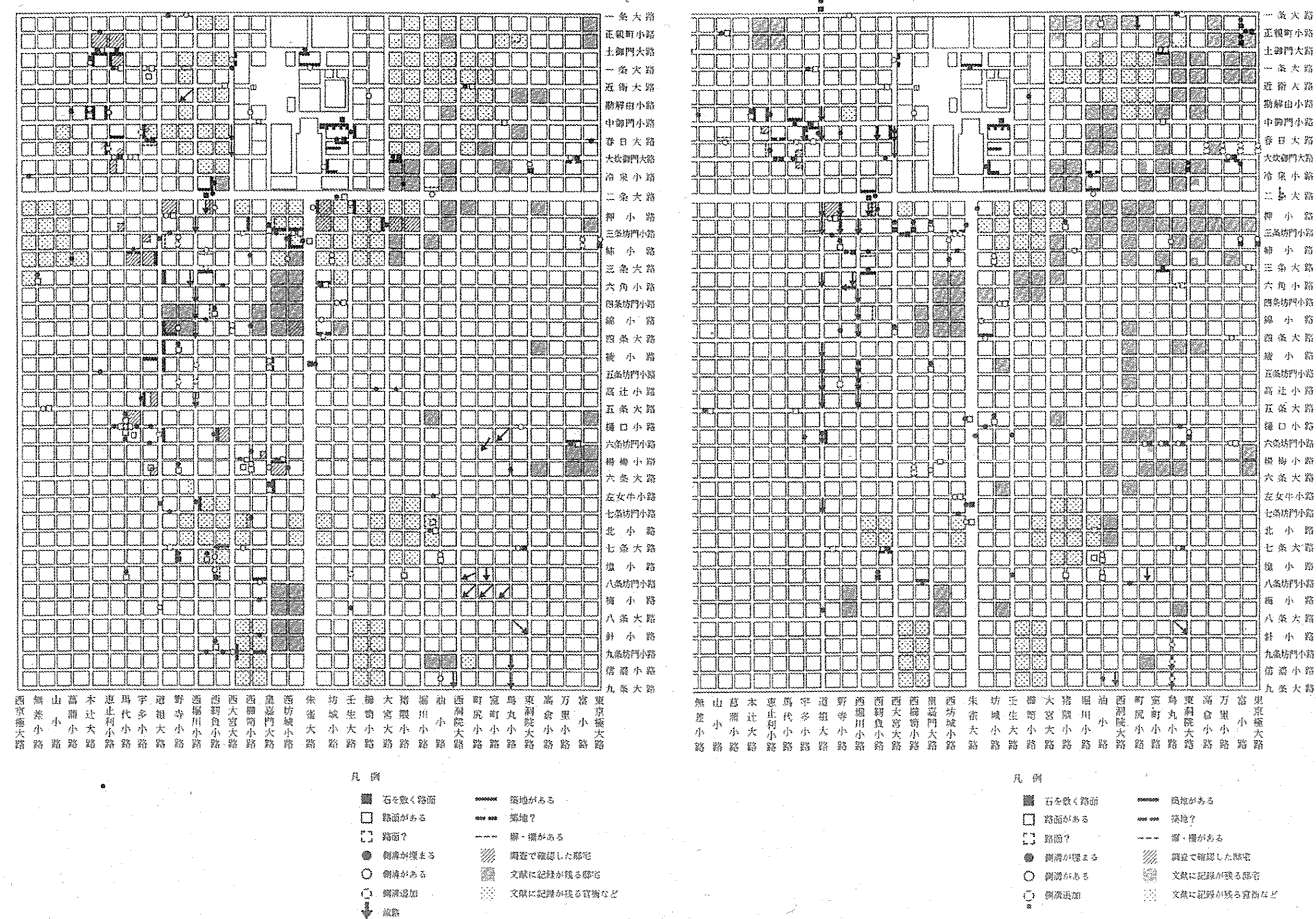


図 14 平安京街路関連遺構分布図 (山本 2007)

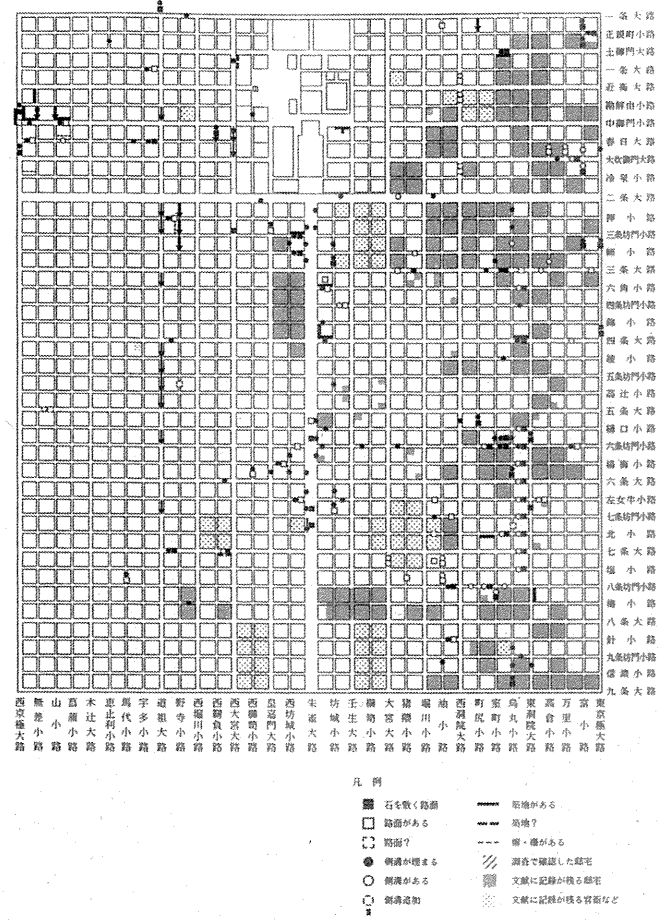


図 15 東京極大路 (1:250)

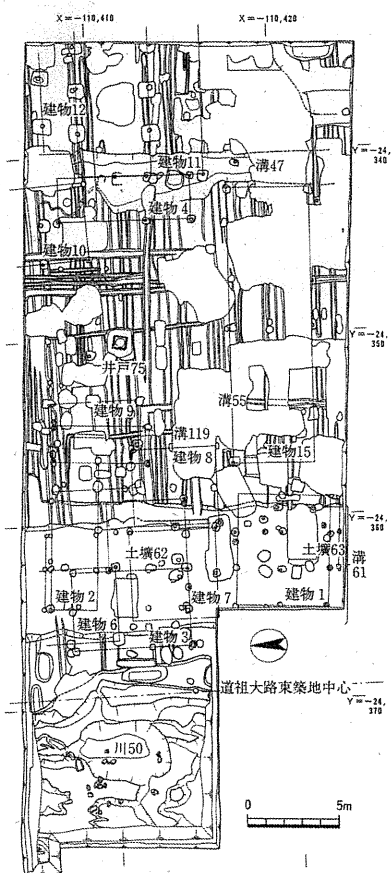


図 16 道祖川 (1:400)

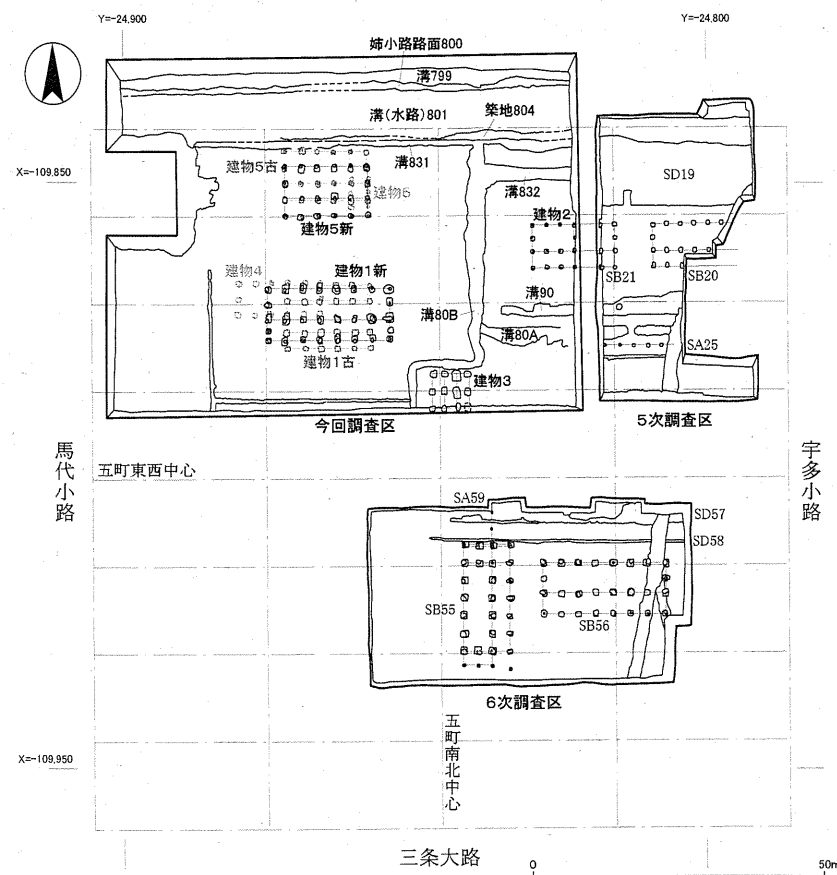
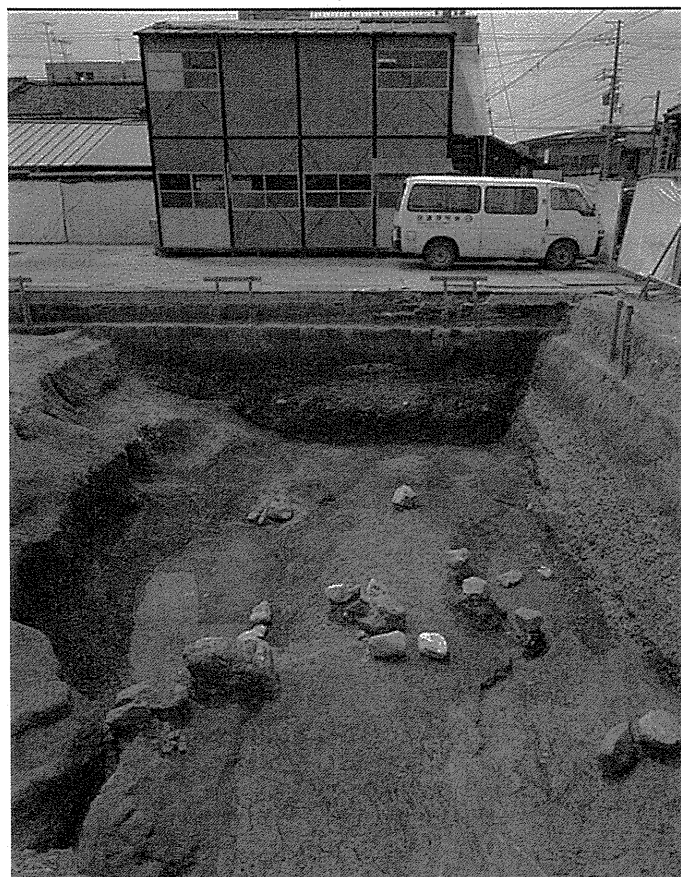


図 17 姉小路と水路 (1:800)

